

稲作管理特報

令和8年3月2日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

1 土づくり

JAみな穂管内の多くのほ場は、ケイ酸、加里などが県全体と比べて少なく不足している状況です。高品質な米づくりに向け、**土壌改良資材は毎年必ず施用し、有機質資材も積極的に施用**しましょう。

表 令和7年度土壌分析結果(県全体) 県全体n=42 JAみな穂n=11

	可給態ケイ酸 [mg/100g]	交換性加里 [mg/100g]	腐植 [%]	地力窒素(水田) [mg/100g]
JAみな穂	19.5	9.4	3.2	14.5
県全体	23.7	14.3	4.1	19.6

県全体と比べて、JAみな穂管内は水稻や大豆の栽培に必要な土壌成分が少ない

ポイント1 ケイ酸質資材の継続的な施用

標準施用量(①、②、③より選択) **標準施用量を上回る散布を行いましょう!**

①	「珪酸石灰」200kg/10a と 「苦土重焼燐」20kg/10a ※
②	「シリカパンチF」120kg/10a
③	「アサヒニューテツ」160kg/10a と 「苦土重焼燐」20kg/10a ※

※洪積地帯(山手)は「苦土重焼燐」40kg/10a 施用

【茎葉中のケイ酸分の増加による効果】

- ケイ酸が少ない稲は高温・少雨下では、蒸散を抑えるために気孔が閉じてしまい、光合成能力が低下する。しかし、ケイ酸があると気孔が開き、**光合成能力が向上**。



- 窒素吸収量が増加し、出穂期以降に葉色が濃く推移することから、**精玄米重や整粒歩合が向上**。

ケイ酸分の増加により光合成能力向上や出穂期以降の葉色が濃く推移 → 収量・品質の向上!!

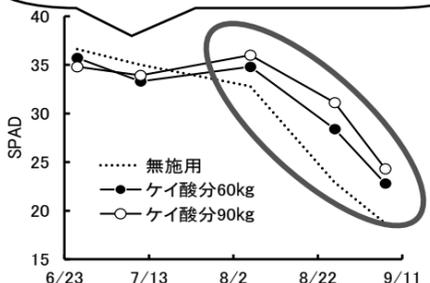


図 ケイ酸施用試験区での葉色の推移 (H22 農業研究所)

ポイント2 有機物の施用

- 堆肥や発酵けいふん等の有機物は、**土壌の透水性・保水性・通気性の改善や腐植含量の増加や保肥力を増進させる効果**があるので**確実に施用**しましょう。
- わらの腐熟を早めるために、積雪がない場合は早めに耕起作業を行いましょう。

【主な有機質資材】

- 牛ふん堆肥(1t/10a)
- グリーンウェイブ2(60kg/10a)
- 発酵けいふん(75kg/10a)

牛ふん堆肥の施用で腐植と保肥力(CEC)と加里が向上 → 収量・品質の安定!

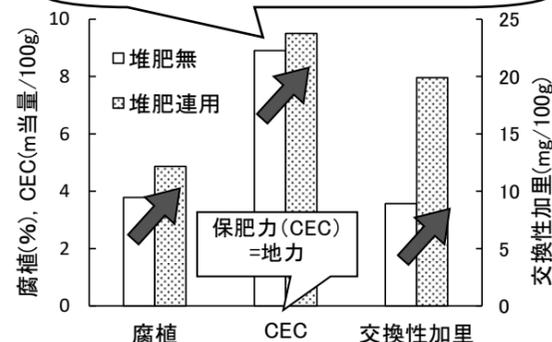


図 牛ふん堆肥を連用したほ場の腐植、陽イオン交換容量(CEC)、交換性加里含量 (H30 農業研究所)

ポイント3 深耕の実施

- ほ場内に水が溜まらないよう水尻を開け、ほ場を乾かしましょう。
- 「現状+3cm」の深耕に努め、**作土15cm以上を確保**しましょう。
- 深耕により根の伸長が促進され、根域が拡大し、米の品質向上につながります。
- 作業速度を落とすとともに、ロータリの回転も低速(PTO1速)にして、丁寧に作業**を行いましょう。

※前年度と異なる品種を作付けする際は、ひこばえが翌年の漏生イネの主な発生源となることがあるので、**大豆跡を基本とし、やむを得ず異なる品種の水稻を作付けする際は、春耕前に必ず除草剤散布(プリグロックスL)しましょう。**

プリグロックスLは、**籾、ヒエ等、イネ科種子に散布すると発芽・生育能力を失う効果があります。**こぼれ籾、ひこばえが露出している(すき込み前:目安3~4月上旬)時に散布しましょう。

薬剤名	作物名	散布量(/10a)	備考
プリグロックスL	移植水稻	800~1000 mL (希釈水量 100~150L) 【使用時期】 春期水田耕起 1ヶ月前~直前まで	<ul style="list-style-type: none"> 漏生籾(こぼれ籾)や1年生雑草(ヒエ、クサネム等)種子の発芽抑制等により、異品種混入や雑草の発生を減らす。 土中の種子には効かないので、耕起前に散布する。 ワラの下にある雑草種子まで薬液が確実にかかるよう散布量を確保する。また、降雨後の散布の方が、ワラ下の雑草種子やこぼれ籾に薬液が付着しやすいことから安定した効果を発揮する。 気温が低くても効果が安定し、散布15分後の降雨でも、安定した効果を発揮する。 直播ほ場で品種切替する際は、漏生対策を徹底する。 ※直播ほ場は、散布量が異なります。事前にラベルを読み、ラベルに記載された使用方法に従って、正しく使用しましょう。
成分数 : 2 使用回数 : 1回			

2 農作業安全

春の農繁期は、耕起・代かきや田植えなど農業機械による作業が多くなることから、この時期に農作業事故が多く発生しています。

特に近年は、高齢者の事故が多くなっていますので、**農業機械の基本操作を守り、無理のないスケジュールで作業**を行いましょう。

また、春作業の始まりとともに、**農業用水路への水量も多くなりますので、転落しないよう注意**して下さい。

雪解け後は、集落の用水などの危険箇所の状況を確認し、侵入防止対策をとりましょう!



春の農作業安全運動(令和8年3月~5月)

- ★JAみな穂営農情報を配信しています。
 - ・営農メール: 水稻栽培情報、気象・災害情報
 - ・LINE: 稲作管理特報などの各種特報
- 右のQRコードから手続きをお願いします。

営農メール



LINE

